小児血管炎剖検例の統計的観察

（過去5年間の日本病理剖検輯報による）

聖マリアンナ医大第二病理　直　江　史　郎
昭和大・医・第一病理　増　田　弘　毅
千葉県がんセンター研究所　田　中　昇

川崎病を病理学的に検索して行くためには小児期における他の血管炎例との関連をしっかり把握する必要があるといえる。今回日本病理剖検輯報を調べ幾つかの興味ある結果を得たので簡単に報告する。

＜方　法＞

1972年（第13輯）から1976年（第18輯）にいたる5年間の日本病理剖検輯報である。

＜研究結果＞

5年間の剖検総数115,300例のうち血管炎の記載があった症例は417例（0.36%）である(表1)。

このうちわけをみると古典的結節性動脈周囲炎が最も頻度が高い，以下全身性エリテマトーデスや関節リウマチに血管炎を伴ったものが続く。川崎病は高安病よりも頻度が高く第4位を占めている。

性別では，血管炎例は梅毒性大動脈中膜炎を除いて，女性に多い。しかし川崎病は圧倒的に男子に頻度が高い(表2)。

血管炎剖検例のうち15才以下の小児または幼児にみられたものは417例中61例で14.6%であった(表3)。

小児血管炎例61例のうち37例（60.7%）を川崎病がしめ圧倒的に高頻度である。次いで古典的結節性動脈周囲炎，高安病などが続くが Allergic vasculitis などの数はあまり多くない(表4)。

＜総　括＞

臨床例についての疫学調査では川崎病は決して減少しているとはいえない。しかし死亡例は多少減少の傾向を

表 Incidence of Angitis in Autopsy Cases

	1972	1973	1974	1975	1976	Total	%
Autopsy cases	21,725	22,717	23,484	23,018	24,259	115,203	
CPN	18	21	17	10	18	84	20.1
SLE+angitis	9	11	9	11	7	47	11.3
RA+angitis	4	8	10	8	13	43	10.3
Kawasaki disease	**11**	**8**	**7**	**7**	4	**37**	**8.9**
Takayasu disease	6	11	7	6	4	34	8.2
Behçet disease	2	2	1	3	4	12	2.9
Wegener+angitis	3	2	1	2	3	11	2.6
Allergic vasculitis	2	4	0	3	1	10	2.4
PSS+angitis	2	3	1	1	0	7	1.7
Buerger disease	1	1	1	0	3	6	1.4
DM+angitis	0	0	1	1	2	4	1.0
Necrotizing angitis	2	7	4	2	4	19	4.6
Syphil. mesoaortitis	20	8	8	3	7	46	11.0
Others	17	16	6	10	8	57	13.7
Total	97	102	73	67	78	417	

(Angitis cases/Autopsy cases＝417/115,203＝0.36%)

みせているように思える。しかし剖検例からみての川崎病の頻度については不明な点が多かった。

今回の調べにより，血管炎剖検例のうちにしめる川崎病の割合は相当な高頻度であることがわかり，その頻度は小児血管炎例の約60％以上にも達するほどであった。

また，他の血管炎例が女性に多いのに反し川崎病例では男子に頻度が高いことも特徴の一つと云てよう。

<結　語>

剖検輯を詳細に調べ川崎病例を他の小児血管剖検例との関連が理解出来，川崎病はかなり頻度が高いことを確認した。

<参考文献>

1) 日本病理剖検輯報（第13輯～第18輯）1972～1976，日本病理学会編。
2) 柳川　洋：川崎病の実態，公衆衛生情報5，22-29，1975.
3) 川口　毅他：川崎病死亡例収死亡票による分析，日公衆衛誌，25，335-340，1978.
4) 直江史郎他：小児血管炎における病理学的研究——とくに川崎病を中心として——，日本病理学会秋季特別総会A演説発表，1978，（東京）。

表 2　Sex Incidence of Angitis

	Male	Female	Male : Female
CPN	41	43	1 : 1.1
SLE＋angitis	7	40	1 : 5.7
RA＋angitis	11	32	1 : 2.9
Kawasaki disease	**30**	**7**	**4.3 : 1**
Takayasu disease	9	25	1 : 2.8
Behçet disease	8	4	2 : 1
Wegener＋angitis	6	5	1.2 : 1
Allergic vasculitis	5	5	1 : 1
PSS＋angitis	0	7	0 : 7
Buerger disease	4	2	2 : 1
DM＋angitis	2	2	1 : 1
Necrotizing angitis	13	6	2.2 : 1
Syphilitic mesoaortitis	36	10	3.6 : 1

表 3

	1972	1973	1974	1975	1976	Total
Angitis in Adult	79	89	62	55	71	356
Angitis in Childhood	18	13	11	12	7	61
Total No. of Angitis	97	102	73	67	78	417
Child./Total (％)	18.6％	12.7％	15.1％	17.9％	9.0％	14.6％

表 4　Incidence of Angitis in Childhood

	1972	1973	1974	1975	1976	Total	％
Kawasaki disease	11	8	7	7	4	37	60.7
CPN	2	2	1	1	0	6	9.8
Takayasu disease	0	0	3	0	1	4	6.6
Allergic vasculitis	1	1	0	0	1	3	4.9
SLE＋angitis	0	1	0	1	0	2	3.3
RA＋angitis	1	0	0	0	0	1	1.6
Phlebitis	2	0	0	0	0	2	3.3
Necrotizing angitis	0	0	0	3	0	3	4.9
Others	1	1	0	0	1	3	4.9
Total	18	13	11	12	7	61	

検索用テキスト　OCR（光学的文字認識）ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

川崎病を病理学的に検索して行くためには小児期における他の血管炎例との関連をしっかり把握する必要があるといえる。今回日本病理剖検輯報を調べ幾つかの興味ある結果を得たので簡単に報告する。